

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 1月鳥類調査 速報

●実施状況

令和5年1月20日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温9.3～10.5℃、無風～南東寄りの風、風速0～2.5m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が9時53分(115cm)、満潮は15時00分(176cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)	お台場海浜公園
作業時刻	9:15-10:16	11:05-12:20	13:01-14:06
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	9.3	9.7	10.5
風向	-	-	南東
風速(m/sec)	無風	無風	2.5
備考	干潟は殆ど干出しなかった。	潮が高かったため、通常よりも西側から上陸し、観察地点を西側の岬に変更した。	第六台場周辺は波がやや高く、うねりが大きかった。

●主な出現種等

	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位2種	コガモ(50羽) オオバン(38羽)	カンムリカイツブリ(3925羽) スズガモ(2153羽)	カワウ(1436羽) スズガモ(373羽)
備考	・重要種として、6種を確認。(ミサゴ、ハイタカ、等) ・干潟はわずかに干出したのみで、カワウ、アオサギ、ユリカモメが短時間滞在した。 ・調査地北東側の京浜島付近でオカヨシガモやマガモ、カルガモ、ハシビロガモが休息、南西側の護岸上でコガモが休息、南側の水面ではオナガガモやヒドリガモが採餌、ホシハジロやキンクロハジロが休息。 ・ミサゴ、トビ、ハイタカが上空を飛翔。	・重要種として、11種を確認。(クロツラヘラサギ、ハマシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、等) ・干潟は非常に狭く、調査中にさらに狭まった。イソシギ、ダイサギ、オオセグロカモメなどが見られたのみ。 ・東なぎさの護岸でカワウとウミウ、アオサギ、クロツラヘラサギが休息。 ・海上でスズガモとカンムリカイツブリの群れが休息。範囲内はスズガモ12羽のみで、カンムリカイツブリはすべて沖合に分布。 ・ミサゴが上空を飛翔、ノスリが樹上にとまって休息。	・重要種として、10種を確認。(オオバン、オオタカ、ノスリ、等) ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣していた。第六台場で570巣、鳥の島で90巣を確認。アオサギは飛来を確認したが、営巣は見られなかった。 ・スズガモ、ホシハジロ、ウミアイサなどのカモ類はお台場海浜公園から鳥の島付近の水面で休息。 ・上空をトビとノスリが飛翔。鳥の島の樹上でオオタカが休息。

●出現種と個体数

[illegible]

*1 文化財保護法：特天＝特別天然記念物

*3 環境省レポート・2020：CR=紀伊半島I類、CV=紀伊半島II類、V=瀬戸内海II類、VI=瀬戸内海I類、VII=瀬戸内海II類、NT=瀬戸内海III類、D=瀬戸内海IV類

*4 東京都レックドリス（区部）2020年版：CR=瀬戸内海I類、FN=瀬戸内海II類、V=瀬戸内海III類、VI=瀬戸内海IV類、VII=瀬戸内海V類、NT=瀬戸内海VI類、D=瀬戸内海VII類

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟はわずかに干出したのみ。



○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの9種が確認された。このうちホシハジロは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。調査地北東側の京浜島付近でオカヨシガモやマガモ、カルガモ、ハシビロガモが休息、南西側の護岸上でコガモが休息、南側の水面ではオナガガモやヒドリガモが採餌、ホシハジロやキンクロハジロが休息していた。

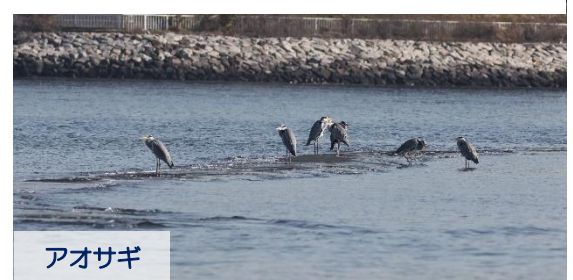
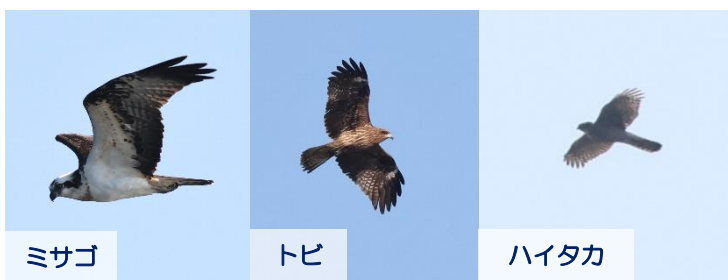


○出現種(タカ類)

ミサゴ、トビ、ハイタカの3種が確認された。ミサゴとハイタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。ハイタカは令和3年度2月に初めて記録され、今回が2回目の記録となる。

○干潟利用状況

最大干潮時になっても、干潟は極めて狭い範囲が干出したのみ。カワウとユリカメが降りていたほか、船の接近に驚いて飛び立ったアオサギが飛来したが、いずれも滞在時間は短かった。



<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は狭く、調査中にさらに狭まっていった。



西側の畔から南東方向を見る



○出現種(クロツラヘラサギ、ウミウ)

クロツラヘラサギは東なぎさの消波ブロックで休息する 3 羽が確認された。寝ている状態が長かったが、時折顔を上げたほか、羽ばたく様子が観察された。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類(EN)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に指定されている。ウミウ 4 羽が同じ場所で見られ、カワウやアオサギとともに休息していた。



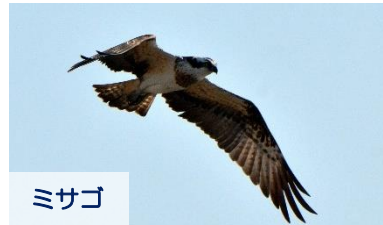
クロツラヘラサギ



ウミウ

○出現種(タカ類)

上空を飛ぶミサゴ 1 羽と、樹上にとまるノスリ 1 羽が確認された。ミサゴは沖合の杭にも別個体 2 羽がとまっていた。ノスリは東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に指定されている。



ミサゴ



ノスリ

○海面の状況

カモ類はスズガモとクロガモ、カイツブリ類はカンムリカイツブリとハジロカイツブリ、カモメ類はユリカモメとセグロカモメ、オオセグロカモメが海上に見られた。このうち範囲内にいたのはスズガモ 12 羽とセグロカモメ 3 羽、オオセグロカモメ 1 羽のみで、他は沖合に分布していた。東京都レッドリストでスズガモとカンムリカイツブリは留意種に、クロガモは情報不足(DD)に、ハジロカイツブリは準絶滅危惧(NT)に指定されている。



スズガモとカンムリカイツブリの群れ



ユリカモメ

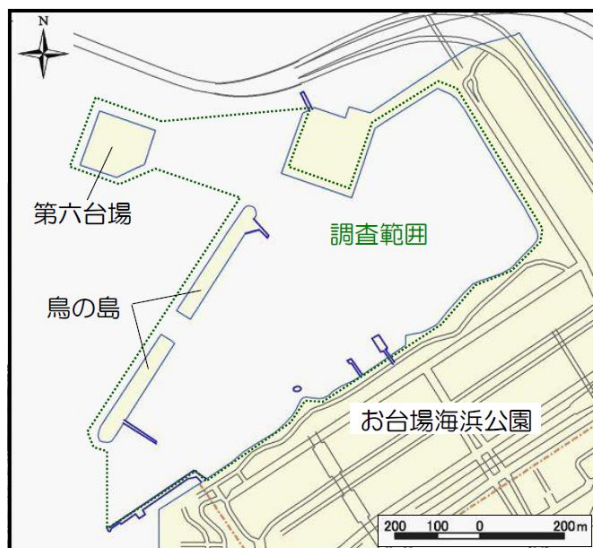
○干潟利用状況

狭い干潟でダイサギ 1 羽、イソシギ 1 羽、ハクセキレイ 1 羽が採餌、オオセグロカモメ 1 羽が休息していた。

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ)

カワウが抱卵・育雛中で、第六台場で 570 巣、鳥の島で 90 巣、合計 660 巣を確認した。昨年 1 月が合計 700 巣で、ほぼ同程度の営巣数であった。第六台場と鳥の島ではヒナの鳴き声がよく聞かれ、大きく育ったヒナの姿が確認された。目視できたヒナの数第六台場で 80 羽、鳥の島で 6 羽であった。アオサギは第六台場の樹林で 13 羽、鳥の島で 8 羽が確認されたが、営巣に関わる行動は見られなかった。



カワウのヒナ(左)と成鳥



アオサギ

○出現種(カモ類)

カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサの 5 種が、お台場海浜公園から鳥の島にかけての海上で見られた。スズガモがもっとも多く、合計 373 羽が休息していた。ウミアイサは東京都レッドリストで情報不足(DD)に指定されている。

左からウミアイサ、スズガモ、ホシハジロ



○出現種(タカ類)

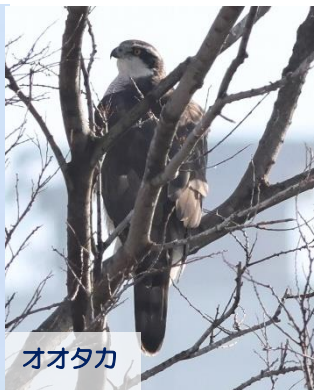
トビとノスリが第六台場と鳥の島で、オオタカが鳥の島の樹上で確認された。オオタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



トビ



ノスリ



オオタカ

<その他>

○ウミネコの繁殖

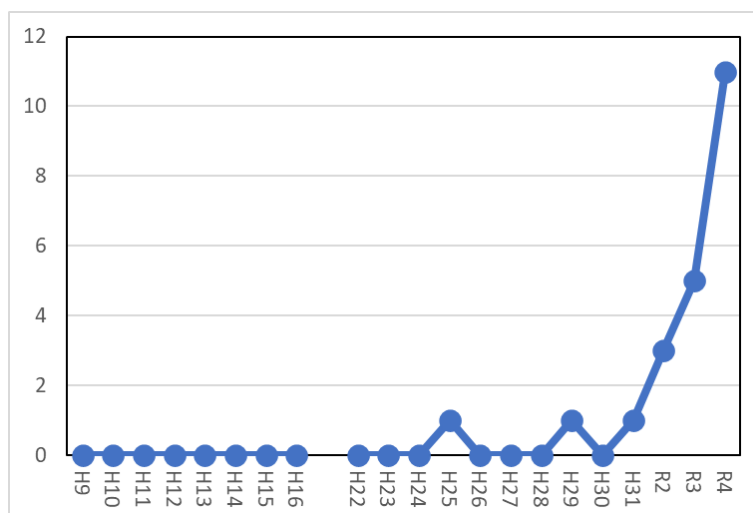
砂町運河でウミネコは確認されなかった。付近の構造物でカワウ 15 羽が休息していた。



<トピックス>

-お台場海浜公園におけるトビの増加-

近年、第六台場や鳥の島周辺でトビの個体数は増加傾向にあり、今回の調査では過去最大数の 11 羽が確認された。第六台場では地上に降りてカワウのヒナの死体を食べるトビが複数観察された。カワウの営巣数が増加し、ヒナの死体が多く供給されたことで、トビが増えた可能性がある。



お台場海浜公園におけるトビの最大数の変化
(令和4年度は5～1月の最大数)